

【テーマ】地域・資源の価値を高める～世界遺産「熊野古道」を住民と共に～

【講師】三重県立図書館 企画総務課課長 平野昌氏

【日時・場所】2014年1月17日 18:30～21:30 106講義室

■はじめに

経歴紹介

用地買収担当

～防災担当；阪神淡路大震災後、地域防災計画担当。その時に関係者が自主的に参加するノウハウを身につけ、その重要性を経験した。

～文化振興イベント担当；従来のイベントの構造変革。広告代理店など外部の企画会社、ボランティアの協力を得た経験がその後の役に立った。

～ISO14001 国際認証取得担当；環境配慮型活動の推進。コスト削減に効果。PDCA のマネジメントを身につけた。

～熊野古道世界遺産登録推進担当；8年間担当、前半4年間は世界遺産登録を想定した三重県としてのアクションプログラムを、住民、民間事業者、地元行政等の参画を得て策定し、進行管理を行った。後半4年間は熊野古道の本質的な価値に気づき、守っていくプロモーション活動を中心に行う。

～現在、三重県立図書館企画総務課

■ポイント

- ・「価値の本質」に早く気づくこと
- ・気づいた「価値の本質」を活かし、守る活動については、地域住民をはじめ多くの利害関係者の主体的な協力を得られるようにしながら進めること
- ・外部の視点や評価から価値の本質を学び取り、内部で情報共有を図りながら本質を守り伝えること

■講義内容

熊野古道世界遺産登録とアクションプログラム策定（世界遺産登録2年前から取り組み開始）

- ・世界遺産登録を想定して三重県内の包括的な計画を策定
- ・熊野古道の保全と活用についての基本的な考え方をまとめる
- ・熊野古道のめざすべき姿と基本的なアクションプログラムを明確にする
- ・自発的に実行する「みんなのアクションプログラム」に注力する

※熊野アクションプログラムについて

・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」における三重県の主要資産である熊野古道伊勢路を対象として、それを将来に向けて守り、価値を伝えていく（保全）とともに、各主体が地域づくりに活かしていく（活用）ための

指針

- ・熊野古道に関わる市民、事業者、行政関係者などの知恵と思いが編集されたプログラム。

第1アクションプログラム（2003年）

- ・第1期のアクションプログラムは、地元担い手、市民、民間事業者、行政担当者等が参加した100人規模のワークショップ、ヒヤリング、シンポジウムなどを経て、2003年3月に取りまとめられる
- ・「紀伊山地の霊場と参詣道」は2004年7月の世界遺産会議で世界遺産リストに登録された。

第1アクションプログラム作成体制

アクションプログラム作成にあたりワークショップの実施

ワークショップに参加メンバー巻き込み、シンポジウムを経て策定

- ・市民プランナー（一般公募、興味のあるひとはだれでも）
- ・サポーター（三重県内の地域外の実務者）
- ・行政職員
- ・アドバイザー（各分野の専門家）
- ・事務局（第3者の有識者が参画）

第2アクションプログラムと追記編の作成

- ・第2期のプログラムは、新たに参画された方々も加えて、アンケートとヒヤリングをもとに、シンポジウムを経て取りまとめられた（2005年7月）
- ・プログラム追記編は、アンケートと新たな対象を多数追加したヒヤリングをもとに、熊野古道協議会議での協議を経て取りまとめられた。（2008年12月）

アクションプログラム策定の流れ

- ・事務局の編成（当初から外部スタッフの参画）～専門家などへのヒヤリング、文献調査
- ～市民プランナーの公募（この指とまれ方式）～ワークショップ（100人規模）や勉強会の開催
- ～ワークショップ等の成果によるプログラム素案編集～シンポジウムの開催（素案の公開）
- ～アクションプログラムの公表～※熊野古道協議会議での協議（定期、随時）

※熊野古道協議会（2004年2月発足）

- ・熊野古道に関する様々な活動をしている関係者が一堂に会し、意見交換や調整をしていく「場」
- ・構成員 ⇒熊野古道に関わるすべての人が参加できる
- ・組織 ⇒熊野古道に関わる分野を代表するボランティアの世話人を置く（市民活動、森林環境、産業、学術、行政）協議の事務局はプログラムの事務局（三重県）
- ・総会⇒年に一度総会開催
- ・必要に応じて臨時会議開催

第1期の骨子「三つの基本と四つの方針」(2003年)

・・・熊野古道のめざすべき姿

三つの基本

「独自性の確立」「総合的な環境保全」「内発的な地域振興」

四つの方針

「自主的に行動する」「多くの仲間と協議する」「じっくりと取り組む」「あるものを活用する」

第2期の骨子「3つの目標」(2005年)

- ① 「価値に気づく」世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の価値の本質に気づく
- ② 「守り伝える」本質的な価値を、地域が一体となってそれぞれの役割に応じ、取り組みを進める
- ③ 「伊勢路を結ぶ」地域を越え一本の信仰としての道として捉え伊勢と熊野という2つの聖地を結ぶ

第2期追記編の骨子「3つの輪づくり」(2008年)

地域の内外に効果的なプロモーションを行い、外部の評価から内部へ充実させ、より明確に世界遺産としての文化的価値に多くの関係者が気づいて、そのことから当地の文化的価値を守り伝えていく。

・「外の輪づくり」；地域外の評価に耳を傾ける。来訪者の実態を把握し、来訪者が熊野の何に魅力を感じ、現地でどのような行動をしているかを把握すること。そしてどのような「もてなし」が必要かを考えること。

・「内の輪づくり」；地域の関係者が学ぶ。地域のひとが来訪者と交流することで、来訪者の視点を備えていくこと。

・「保全と活用の輪づくり」；世界遺産として守るべき価値を明確にし、守られてきた仕組みを検証し、現代にあった資産活用を行う。熊野古道は資産価値にもとづき「伊勢路を結ぶ」活動を行いながら、その価値を「守り伝える」ために、遺産を守る工夫をして活用していく

プロモーション活動の重要性

- ・遺産を守る第一人者は、地域の人々
- ・広報活動は外部へのPRと同時に、内部への「気づき」を促す
- ・地域の人々が、守る価値に気づき、地域が活性化していくには、地域内外の評価がとても重要(内の輪づくり、外の輪づくり)

地域の遺産のマネジメントについて

・地域の遺産は、行政のみならず、地元の担い手や民間事業者などの利害関係者と策定した計画にもとづきマネジメントしていく。

・行政の役割は、事務局機能をしっかり果たすこと。その事務局に外部のスタッフが入ると、専門性、透明性、客観性、そして何より信用性が大きく増す。

・利害関係者と共有し、関心層に配布する計画は、事務局が編集し、その表現等にも読者目線で注力する。

- ・計画はいつでも見直せるように、関係者との定期的な協議の場を持つように工夫する。
- ・守る遺産の本質に早く気づくこと。そのため、外部の評価と内部の学習が必要。内外へのプロモーション活動は重要な行政の仕事である。

■質疑応答

Q 三重県立図書館での取り組みは？

- ・フォーラム、トークショー、写真、絵画、コンサートなど多数イベントをプロモーションの機会と捉え、開催。東日本大震災から東北関連、熊野古道、伊勢関連などから、仕事シリーズなどそれ以外も広範囲のテーマ。次回イベントなどは、図書館のホームページ参照。
- ・図書館としてはライブラリー・オブ・ザ・イヤー2012 受賞
- ・図書館では、本を媒体とした市民サービスに意識変更。毎月職員会議実施で、外部の方々も参加いただく。3ヶ月に1度には外部評価の機会として諮問会議を開催。年1回のシンポジウムで「株主総会」的に県民に報告。
- ・図書館は地域振興、文化観光の拠点になる。
- ・武雄市図書館について：今まで図書館が出来なかったこと（集客）ができていたので注目している。今後は新しい顧客に図書館サービスをどうつなげていくかが課題と考える。

Q 行政職員は人事異動があるが、担当者が変わっても協働会議の取り組みが継続されていくためのポイントは？

- ・アクションプログラムに協働会議について 年1回開催を明記、行政は決まりごとを守る。
- ・協働会議事務局に2名（市民活動家、有識者）の市民を参画依頼している。

Q プロモーションについて、面白い取り組みはどんなものがあるのか？アクションプログラムに様々な取り組みあり。

- ・熊野古道センター（2007年2月開館）の建築コンペの取り組みを紹介
- ・観光初心者は馬越峠がおすすめ

Q 他県との共同取り組みは？

- ・奈良県・和歌山県・三重県の共催で、「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録記念イベントを熊野本宮大社で屋外コンサート開催（プロデューサー：細野晴臣氏）

Q 自然と精神について、精神を守り伝えることは難しいと思うがいかがか？（神事、習俗など）

- ・熊野の信仰を「宗教」ではなく「文化」として捉え、プロモーションも進められた。ブームとなっていたパワースポット、聖地などとしてもキャンペーン展開を図り、好評を得た。

議事録担当：都市公共政策 M1 平山紀秀 (M13UB543)